

宮城県大崎保健所栗原支所 感染症発生動向調査情報

令和6年11月28日 発行

1. 発生動向

上段は発生患者数、下段は定点当たり

疾病	疫学週				判断基準(定点当たり)		
	44週	45週	46週	47週	警報レベル	注意レベル	
	10月28日～11月3日	11月4日～11月10日	11月11日～11月17日	11月18日～11月24日	開始基準値	収束基準値	基準値
インフルエンザ#	0	1	2	7	30	10	10
新型コロナウイルス感染症#	16	15	13	16	-	-	-
RSウイルス感染症	0	0	0	0	-	-	-
咽頭結膜熱	0	0	0	0	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0	3	0	0	8	4	-
感染性胃腸炎	2	8	8	8	20	12	-
水痘	0	1	0	2	2	1	1
手足口病	17	8	2	12	5	2	-
伝染性紅斑	0	0	0	0	2	1	-
突発性発しん	0	0	0	2	-	-	-
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	6	2	-
流行性耳下腺炎	0	0	0	0	6	2	3
急性出血性結膜炎	定点設定なし				1	0.1	-
流行性角結膜炎	定点設定なし				8	4	-
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	定点設定なし				-	-	-
無菌性髄膜炎	定点設定なし				-	-	-
マイコプラズマ肺炎	定点設定なし				-	-	-
クラミジア肺炎(オウム病は除く)	定点設定なし				-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	定点設定なし				-	-	-
マイコプラズマ肺炎(小児科)	4	1	7	0	-	-	-
川崎病	0	0	0	0	-	-	-
不明発疹症	0	0	0	0	-	-	-

栗原支所管内定点数: #は3施設。それ以外は2施設

2. 施設対応状況 (過去2週間における支所対応状況) ◎:複数対応中、○:対応施設あり、-:対応無し

施設区分	保育所	高齢者・障害者施設	医療機関
対応状況	○	-	-
備考	感染性胃腸炎		

*「1.発生動向」の解釈について
 ・上段は圏域全体で一週間に診断した患者数
 ・下段は一つの定点(医療機関)において一週間に診断した患者数
 ・下段の定点当たりの数値を表右側の判断基準と照らし合わせて評価してください。

3. 栗原支所より

【定点把握対象疾患】

- ・インフルエンザが増加傾向です。
- ・新型コロナウイルス感染症の発生は横ばいです。
- ・感染性胃腸炎は横ばいです。
- ・水痘が発生しました。
- ・手足口病の発生が再燃しています。感染対策に努めましょう。

【集団発生情報】

保育所において感染性胃腸炎の集団発生がありました。感染性胃腸炎の多くなる季節です。感染対策に努めましょう。

【感染症コラム】

～HIV感染症・AIDS(後天性免疫不全症候群)～

- ・ヒト免疫不全ウイルス(HIV)を原因とする慢性感染症です。
- ・主な感染経路は性感染で、患者の精液や膣分泌液に含まれるウイルスが、粘膜(尿道・膣・肛門)との接触を介して感染します。その他、母子感染(妊娠中、分娩時、母乳を介した感染)、針刺し事故や注射器の共用等の血液を介した感染があります。
- ・潜伏期間は、数週間～十数年間です。
- ・感染初期に、発熱、喉の痛み、倦怠感等の風邪に似た症状が出ることもありますが、数週間で治まります。抵抗力が落ちるとAIDSを発症し、発熱や下痢等の様々な症状が現れ、進行すると肺炎(ニューモシスチス肺炎)や脳炎(HIV脳症)、腫れもの(カポジ肉腫)ができる等の日和見感染症や悪性腫瘍を併発します。
- ・近年、治療薬の開発が飛躍的に進み、早期に服薬治療を受ければ免疫力を落とすことなく、通常の生活を送ることが可能となりました。ただし、服薬治療を中断するとHIVウイルスは再増殖するため、治療の継続が必要です。
- ・そのため、早期治療だけでなく感染予防も必要です。コンドームを正しく使用すれば性行為によるHIV感染はほぼ100%防げます。



感染症情報 ←



性感染症検査 ←

大崎保健所 栗原支所 疾病対策班
 ☎0228-22-2117 📠0228-22-7594
 HP: <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khhwfz/ktindex.html>